

フィリピン社会を学んで、価値観を広げよう

氏名：佐藤 智子

学校名：福島県立いわき総合高等学校

担当教科：英語

実践教科：異文化理解

時間数：12時間

対象学年：2・3学年

人数：30名

【実施概要】

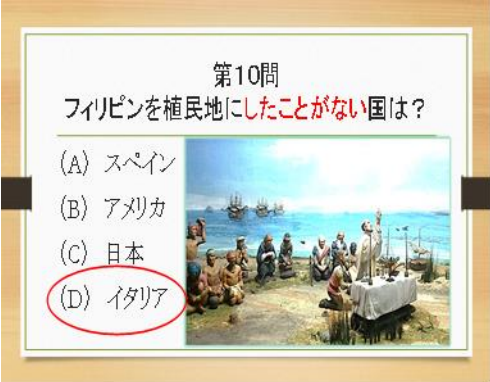
【1】単元のテーマ・目標

世界には様々な価値観を持ち、独自の社会文化に基づいた生活をしている人たちがいることを知るとともに、日本人的な価値観との違いを発見したり、比較をすることで、将来の進路実現に向けて、自分の価値観を大きく広げ、他者とともに協力しながら問題を解決したり、行動できる素地を作る。

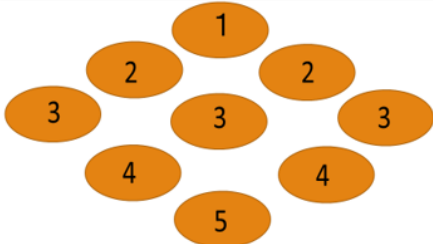
【2】 単元の 評価規準例	(ア) 関心・意欲・態度	フィリピンを含め海外事情に関心を持ち、主体的にとらえ、問いかけに対し真剣に考えようとしている。
	(イ) 思考・判断・表現	問題や状況をよく判断し、自己の意思を決定して、それを適切な言葉を用いて表現している。
	(ウ) 技能	他者の意思を尊重しながら、自己発信ができる。コミュニケーションにおいて意欲的に意見交換し、まとめができる。
	(エ) 知識・理解	外国の社会文化や歴史だけでなく、海外の諸問題を理解し、それに対する解決策などを考えようとしている。

【3】 単元設定の理由 (児童/生徒観、 教材観、指導観)	【生徒観】 2年生男子4名、2年生女子12名、3年生男子4名、3年生女子10名、合計30名の講座である。単年度の選択授業の一つであり、2時間連続の授業である。比較的英語学習に興味関心が高い生徒が多く、それ以外にも韓国や中国を学べるという理由で選択する生徒も存在する。積極的に発言する生徒も数名いるが、学年の違いなどもあり、ほとんどはおとなしく、自分から発言することや他人との話し合いを苦手とする者も多い。
	【教材観】 他者との関わりに気を使いすぎて疲労してしまうのが本校生の課題といえる。そこで、良好なコミュニケーションのあり方を含め、視野を広げて様々な価値観を学ぶことでこれまでの自分の枠を飛び出し、他者との積極的な関わり方を学ぶために、フィリピン社会の多様性を題材とした学習やグローバルな視点を持たせるためのSDGs学習は適切であると考ええる。
	【指導観】 主にフィリピンでの取材を活用した授業になるが、動画や写真の提示をなるべく多くし、生徒の視聴覚に訴え、記憶や印象に残りやすい指導を心がける。そこから、自分の意見をまとめたり、ペアやグループで話し合ったりしながら、様々な価値観を知り、それを自分なりに考えたり、取り入れたりできるよう、研修で学んだ手法を通して指導を行う。

【4】展開計画（全 12 時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1-2	【テーマ】 S D G s と国際協力 【ねらい】 日本と世界のつながりについて考えることができる。	・ S D G s とは何かを説明する。 ・ 達成度について日本とガーナを比較検討させる。 ・ 地球規模の様々な課題について説明する。 ・ 国際協力の必要性について、アフガニスタンでの日本人の協力活動の動画を見せる。 ・ 国際協力のイメージをつかませる。  [授業で使用したスライドの一部]	・ モニター ・ パソコン（PWP） ・ ワークシート
3-4	【テーマ】 どっちがほんと？ ～ある国のはなし 【ねらい】 フィリピンについての概要を理解することができる。	・ 3 枚の写真を見せ、「日本はどれか」と問う。 ・ フィリピンの場所、国旗、人口、食文化などを導入する。 ・ フィリピンにある「日本文化」を見せ、日本とのつながりを意識させる。 ・ フィリピンの都市化と貧困の様子がわかる写真を見せる。 ・ フィリピンの教育システムについて説明する。 ・ フィリピンの抱える問題について確認をさせる。  [授業で使用したスライドの一部]	・ モニター ・ パソコン（PWP） ・ ワークシート

5-6	【テーマ】 「くらべてクイズ」 ～異文化理解 【ねらい】 日本とフィリピンの比較をして、共通点や相違点を認識することができる。	・フィリピン社会に関するクイズを10問行う。 ・答えをペアで検討させ、ワークシートに記入させる。 ・問いごとにペアを指名し、答えを発表させる。そのときそう考えた理由も聞く。 ・クイズを通して分かった内容を意見交換し、ワークシートにまとめさせる。  [授業で使用したスライドの一部]	・モニター ・パソコン (PWP) ・ワークシート
7-8 本時	【テーマ】 How to get good communication～青年海外協力隊員に学ぶコミュニケーション術 【ねらい】 知らない人とコミュニケーションをとるときに大切なことを確認することができる。	・前回までの復習 ・フォトランゲージでフィリピンの食文化に触れる。 ・青年海外協力隊員としてフィリピンに派遣中の青年の紹介をする。 ・異国でのコミュニケーションで気を付けていることや大切にしていることをインタビュー動画で見せる。 ・動画を見た感想について個人でまとめ、ペアやグループで意見交換させる。 ・「コミュニケーションに大切なこと」などのテーマについて個人で考え、付せんに書かせる。 ・書いた内容をグループで共有させる。 ・グループで「コミュニケーション極意の地図」を作成させる。 ・発表と振り返りをさせる。  [授業で使用したスライドの一部]	・モニター ・パソコン (PWP) ・ワークシート ・付せん ・模造紙 ・マジック

9-10	【テーマ】 School Uniform ～制服のもう一つの意味 【ねらい】 様々な価値観を知り、自分の意見を言うことができる。	・フィリピンの児童生徒も制服を着ていることを写真で示す。 ・イロイロ市のレオン中央小学校の制服の写真を見せ、なぜ３種類の制服があるのか考えさせる。 ・制服の色の違いについて説明し、賛否を問う。 ・ペアで賛否を考え、理由とともに発表させる。 ・日本で同じことがあれば、どのような問題が生じる可能性があるか考えさせる。 ・「個性」のとらえ方と多様性を説明する。 ・フィリピン社会の能力主義がわかる写真を示す。 青：通常児 黄：芸術児 [授業で使用したスライドの一例]	・モニター ・パソコン（PWP） ・ワークシート
11-12	【テーマ】 SDGsとわたし 【ねらい】 SDGsの目標の中から自分が一番関心を持ったものについて、誰かにメッセージを発信することができる。	・SDGsの17の目標について復習させる。 ・自分が最も関心を持った項目を、理由とともに発表させる。 ・選んだ項目に関し、世界の誰かに向けて発信したいメッセージとそれに添えるイラストを完成させる。 ・関連項目のアイコンを用紙に貼らせる。 ・生徒の作品を黒板に貼り付ける。 ・自分が一番気に入った作品に丸シールを貼らせ、コンテストをする。 [生徒同士で作品コンテスト中]	・モニター ・パソコン（PWP） ・ワークシート ・SDGs一覧表 ・マジック ・丸シール ・色鉛筆 ・はさみ ・のり

【5】 本時の展開			
過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10 分)	①前回の復習と本時のめあての確認(5 分)	フィリピンで問題になっていることを理解しているか、問答を通して復習させる。	- モニター - パソコン（PWP） - How to get good communication ワークシート【資料 1】
どっちがほんと？   急激な都市化 貧乏と汚い貧民窟			
		[授業で使ったスライドの一部]	
	②フォトリラングでフィリピンの食文化に触れる(10 分)	- 本時のめあてを確認させる。 - フィリピンについて学ぶ意識を高めるために、簡単なウォーミングアップ活動を行う。 - 食べ物カードを見て、「フィリピンで食べたい 9 つの食べ物ラング」をグループで行い、理由も一緒に考えて、結果発表をさせる。	- 食べ物カード(9 枚×5 セット) - ラング用紙
「フィリピンで食べたい9つの食べもの」ラング 			
		[授業で使ったスライドの一部]	

		 [カードに使用した写真の一例]	
展開 (55 分)	③青年海外協力隊員の現状を知り、彼らのコミュニケーション術を学ぶ (30分)	・フィリピン隊の木村隊員、斉藤隊員、栗田隊員の活動の様子を、彼らが行っているプロジェクトを中心に伝える。	・モニター ・パソコン (PWP) ・「私の気持ちは・・・」ワークシート 【資料2】 ・インタビュー動画
		栗田隊員のプロジェクト 障がい児の生活改善と進学支援 ジョベリちゃん(15歳) ①左手足欠損 ②14歳まで山間部で暮らし通ぐす ③現在Grade1 (小学校1年) → 現地の福祉担当者協力 ジョベリちゃんへのファンディング(基金集め) ①給食費等通学費用などを得る ②前市長から毎月1000ペソ支援を得る 	[授業で使ったスライドの一例] ・ 青年海外協力隊員および同行 O B ・ O G に行ったインタビュー動画『現地の人々とコミュニケーションをとるために大事にしていることはなんですか』を見せる。 ・ 視聴後、「私の気持ち」ワークシートの中から、自分の気持ちに近いものを3つ選び、ペアで選んだものを比較・説明させる。

	④「コミュニケーションの極意」の作成(25分)	・「日常でかかわる人々にどんな関わり方をしているか」と問い、自分のコミュニケーションのあり方を振り返らせる。	・モニター ・パソコン (PWP) ・付せん ・マジック ・模造紙
	あなたのコミュニケーションは？ 幼なじみ、クラスメイト、異性の友達、部活の先輩・後輩、バイト先の人々、学校の先生、近所のおじさん・おばさん、ラインでつながっている子、今となりに座っている子、そして親戚や家族 …あなたは日常生活でかかわる人々に どんなかかわり方をしているか 言葉づかい・態度・表情・話し方・気遣い 振り返ってみたことはありませんか…  ミ・サム、ロ・アセント、モ・ラウ ドン・A・ロセス科学技術高校の1年生 (フィリピン・ケソン市)		
	[授業で使用了スライドの一部] ・「コミュニケーションをとるときに大事にしていること」と「これはやらないと決めていること」の両面から自分の意見を付せんに一枚ずつ書かせる。 ・書いた付せんを、説明を加えて模造紙に貼らせる。 ・カテゴリー別に島わけし、各項目にタイトルをつけさせる。 ・「コミュニケーションの極意」をまとめさせる。		
			
	[生徒の作品の一部]		
まとめ (15分)	⑤各班発表 (10分) ⑥本時の振り返り(5分)	・早く終わった班から発表させる。 ・本時の学習の感想を書かせる。	・ワークシート 【資料1】

【授業実践の様子】



〔PWPのモニターを見せながら説明〕



〔自分の意見を付せんにとめているところ〕



〔グループで順番に付せんを貼っているところ〕



〔意見交換中のグループ〕



〔たくさんの項目が共有できました〕



〔3年生は大人っぽい意見も〕

【6】 本時の評価

- ・各班発表に対して、質問タイムなども設けたかったが、当日は短縮45分(×2コマ)のため時間を十分に確保できなかった。また、生徒の各種活動の取り掛かりに時間がかかったことも、後半時間が足りないことにつながったと思われる。しかし、本時のめあてに即し、おおむね指導計画通りに進めることができた。
- ・コミュニケーション術がテーマであったので、真剣に考え、いつも以上に自己開示ができた生徒が多かった。周りの目や他人の反応に左右されず、グループの仲間と協力しながら生き生きとコミュニケーション活動をしていたのが印象的であった。

【7】単元を通した生徒の反応/変化

生徒作文からの抜粋

「貧困についての講義を受けて、同じ人間なのにどうしてこんなに格差が生まれてしまうのかという疑問と共に、世界の実情を知らなかった自分の勉強不足を痛感しました。日本は物が充実しているのにあれが欲しい、これが足りないと高望みし過ぎていたと知りました。それに対し、フィリピンでは教育を受けたくても受けられない状況で、食料も土地も十分ではないのに今生きていることに幸せを感じている人が多くいて、とても素敵だと思いました。私も多くのことを望まず、今自分が生きていることに幸せを感じ、シンプルに生きていきたいと思います。」

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

フィリピンの授業を始める前と後に、SDGsについての授業を行った。初回の授業で、生徒たちはSDGsの17の目標に対し、「テストに出そうなところを暗記する」ということに意識が向いていたように思う。たとえば、日本の達成順位は何位かとか、グローバルイゼーションは英語でどう書くかなど、高校生らしい視点で17の目標を見ていたようだった。

しかし、フィリピンの貧困、都市化、ごみ問題、教育などを学ぶうちにSDGsはただの暗記科目ではないと感じたようで、実は自分の立場で考えてみるのが大切なのだということに意識が変わってきたように思う。そこで、最後にもう一度SDGsに授業を戻し、SDGsに関連して「世界の誰かに発信したいメッセージ」の作成を行った。



〔SDGsの目標をみんなで確認中〕



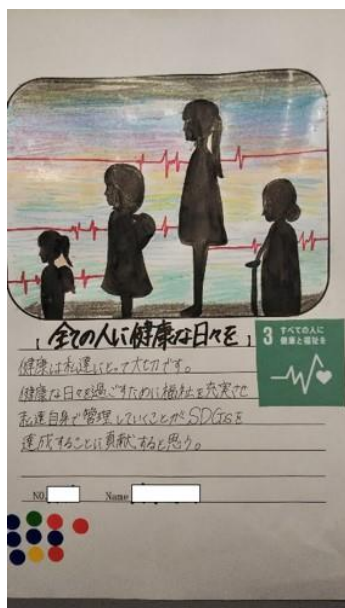
〔メッセージ作成に悪戦苦闘？余裕です！〕



〔グループワークにもだいぶ慣れました〕



〔一番いいと思う作品にシールを貼る〕



[授業でのコンテスト1位作品]



[コンテスト作品の一例]



[コンテスト作品の一例]

【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

- ・SDGsや国際協力は、遠い国の話でしかも内容が難しいという先入観があったようだ。
- ・異国のことは自分には関係のないことだけど、試験に出そうだから授業を聞くという態度があった。
- ・フィリピンといえば、「南国」「バナナ」「フィリピンパプ」くらいしか出てこなかった。
- ・日本の教育や社会制度は、当たり前だと考えている。
- ・途上国の人はかわいそうで不幸な人たちという印象があった。
- ・支援といえば、「募金」程度しか思いつかない。
- ・途上国ではモノや水などが不足しているのはわかるけど、自分たちが直接何かをすることはできないと考えている。

(授業後)

- ・貧しくても「幸せだ」というフィリピン人の動画を見て、不思議な思いをしていた。
- ・自分たちがいかに物質的に恵まれているのかが分かったという感想があった。
- ・物質的に恵まれることが「幸せ」の第一条件ではないことに気づいたようだ。
- ・異国で働く日本人の青年たちの動画を見て、刺激を受けたようだ。動画の中の「相手を知ろうとすること」という言葉に共感を覚える生徒が多かった。
- ・グループワークやペアワークなどクラスや学年、性別を超えて受講生同志がつながりあう姿を見ることができた。
- ・「国際」というと大げさだが、身近にできることや思いをはせることならできると意識が見られた。
- ・他者の意見を聞き、自己表現するのが上手になった。
- ・最後のSDGsの学習では、世界の不平等や諸問題に対し素直に憤りをあらわにしたり、原因を語り合ったりしている生徒も見られた。自分のこととして、SDGsを取り込むことができたようだ。

【8】自己評価

苦勞した点	・この時間では何を中心に教えたいのかにポイントを絞って、効果的なパワーポイントを毎時間分作成するのに相当な時間がかかった。 ・一回分の授業が2時間あるので、飽きのこない授業構成を考えた。説明と活動が半々になるように工夫した。 ・生徒が自分で考える時間をとるのだが、考えに詰まったり、作業がなかなか進まないペアでのおしゃべりが始まってしまうので、ペアを組んだり解消したりするタイミングを適宜行った。
改善点	・生徒に活動を多くさせるのは大切だが、何を学ぶためにこの活動があるのかをはっきりさせなければならない。そのためには、教えるべき内容を限定することが大切だと思う。 ・フィリピン素材に限らず、フィリピンと他国の比較があっても面白いかもしれない。
成果が出た点	・活動を通して生徒も私自身も、「これまでの自分を振り返る」ことができた。自分は教える立場なので、これまで以上に異文化・国際理解について勉強した。数年前から開発教育の手法は学んでおり、今回は実際に自分が行う機会に恵まれ、以前よりもその分野では指導力がついたのではないかと思う。 ・生徒はわずか30人であり、授業も6回(12時間)ほどなので、どの程度国際化したのかわからないが、最後のSDGsのメッセージとイラストを見ると、自分から何かを発信したい、聞いてもらいたい、自分も知りたいという学ぶ態度や意欲が自然に湧き上がっているように思う。その点では生徒も自分の壁を一つ越えることができたのではないか。
備考（授業者による自由記述）	・グループワークを円滑に進めるためにアイスブレイクを行った。 ・視聴覚情報は重要な資料となる。画像検索すればいくらかでも関連画像は出てくるが、実際に自分で取ってきた写真を見せながらの説明は説得力が増す。 ・印象に残したい部分、今回でいえばフィリピンの抱える問題（貧困と都市化）などの情報や写真は、何度か繰り返し見せたりして確認することが大事だと思う。 ・「やっているうちに自分も楽しい」という感覚を持つことができた。生徒にもその感覚を持たせられるよう工夫した。

添付資料：

- ・資料1 How to get good communication 授業用ワークシート
- ・資料2 「私の気持ちは・・・」ワークシート

参考資料：

- ・開発教育実践ハンドブック（特定非営利活動法人 開発教育協会）
- ・ふくしまグローバル人材育成指導者セミナー2017資料（公益社団法人 福島県国際交流協会）
- ・DVD：授業で使える10分映像集（独立行政法人 国際協力機構 広報室 地球ひろば推進課）
- ・WEB：SDGsとは？17の目標とともに徹底解説（一般社団法人 イマコラボ）
[\(https://imacocollabo.or.jp/about-sdgs/\)](https://imacocollabo.or.jp/about-sdgs/)
- ・WEB：2018年度版SDGsインデックス&ダッシュボード (<http://sdgindex.org>)

【資料1】

How to get good communication ワークシート

学習日 10月29日(月)

(1) フィリピンで問題になっていること

・「_____」

具体例

〔

〕

・「_____」

具体例

〔

〕

(2) 「フィリピンで食べたいもの」(自分の考えをまとめましょう)

ランキング1位のもの ⇒ ()

※理由:

ランキング最下位のもの ⇒ ()

(3) JICA 青年海外協力隊員・フィリピンチーム

(活動内容)

・ 斉藤 南隊員

〔

〕

・ 栗田哲也隊員

〔

〕

・ 木村俊貴隊員

〔

〕

(4) ジョベリンちゃんについて

〔

〕

(3) JICA 青年協力隊員フィリピンチーム 3人の共通点

・自分の持っている知識や()を生かして、現地の人々の生活を支援したい。

・技術指導や支援をするときに、現地の人たちとの()が欠かせないと感じている。

(4)「現地の人々とコミュニケーションをとるために、大事にしていること」

- ・ J I C A東北 高橋泰行さん
- ・ J I C Aフィリピン 本間みどりさん
- ・ 栗田隊員
- ・ 木村隊員
- ・ 斉藤隊員

(5) 身近な人々とコミュニケーションをとるときに、
あなたが

- ・「大切にしていること」⇒

※ 理由

- ・「やらないと決めていること」⇒

※ 理由

(6) 本日の授業の感想

No. Name

【資料2】

自分の気持ちに近いものを3つに○をつけましょう。

「私の気持ちは・・・」 ワークシート

自分には 関係ない	おもしろい	参考に なった	感心した
おどろいた	わけが わからない	興味がない	不安だ
いらついた	わくわくした	ために なった	勇気が出 た
自信がない	あこがれる	くだらない	

- ※ 最後のマス目にはここには書いてない自分が感じた気持ちを書き入れましょう。
- ※ ペアで、選んだ3つについて説明しましょう。
- ※ 相手の意見との相違点、共通点を探しましょう